

環境プランナー報告書



株式会社 増田喜

1. 環境方針

「地球環境にやさしいリサイクル社会へ貢献するため、
質の高いサービスと安定した原料供給をめざします」

【2006 年度スローガン】

「思いやりと責任のある行動を軸として
お客様満足度120%を目指します」

“お客様に満足して頂けるサービス”を提供することで、
より多くの“リサイクル原料”を収集し、循環型社会に
貢献することが、当社の使命であると考えます。
また、旧来の“持ってこい”という問屋体質から脱却し
“おコシください”のサービス精神あふれる従業員を育て
ていく所存であります。

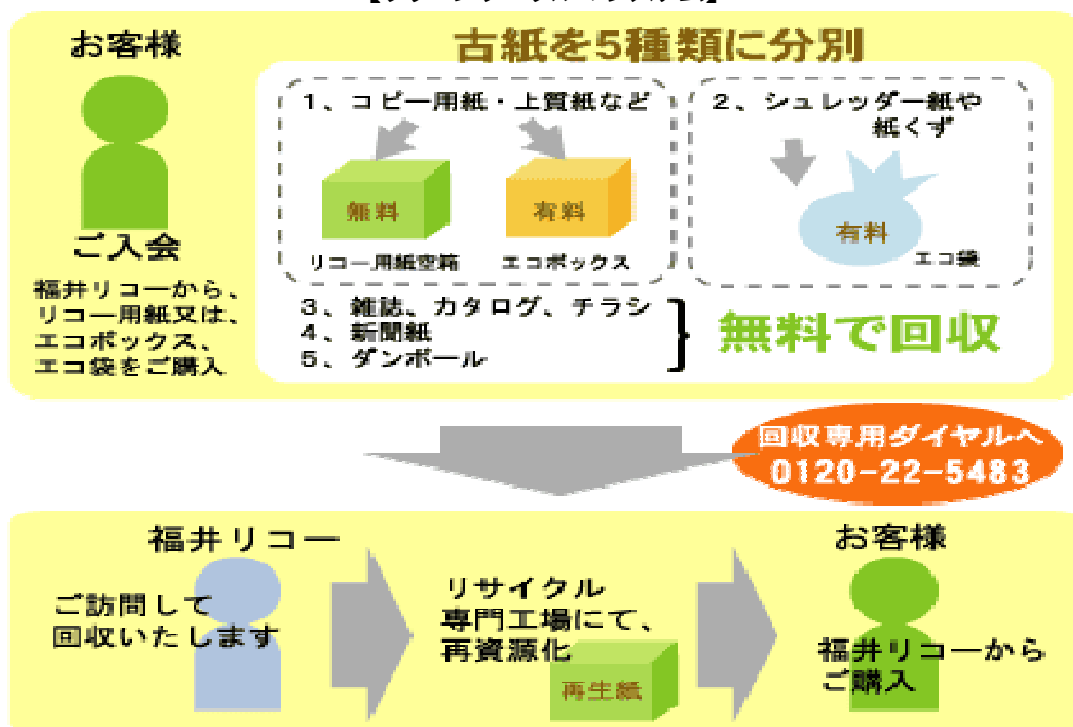


株式会社 増田喜
代表取締役社長 増田喜代治

2. 環境目標とその実績

環境目的	目標	内容(計画)
①古紙回収による 資源の有効活用	回収ルートの効率化による ガソリン燃料の削減	回収件数と走行距離により測定予定 2006年8月スタート
	グリーンサークルの推進	福井リコー(株)と共同して、古紙の分別・回収 プロジェクト前年度比 30%UP(取引組織数)
	出張細断の促進 (機密文書の出張細断 サービス⇒リサイクルへ)	リサイクルが難しいミックス古紙(シュレッダーくず、 カーボン紙など)も再資源化。 1トン/時間の処理能力で省力化。 前年度比 30%UP(処理量)
②繊維くずの 再資源化	繊維くず(ポリエステル)回収 の事業化	焼却されていた繊維くずを回収し、リサイクルへ。 これまでのノウハウを生かした新規事業。

【グリーンサークルのシステム】



3. 主要な環境活動の内容

地域のみなさん(行政・学校・地域住民など)と行う集団資源回収。

回収BOX(一般の方の古紙持込)の設置。

福井営業所の新設及び制服を一新して古紙回収業のイメージアップ。

エコサポート企業としての従業員教育(班別ミーティング)。

会社周辺における清掃活動(毎週)。

学校における環境教育(リサイクルについて)。



4. 法規制の違反、訴訟

2006年6月現在、環境法規違反及び訴訟はありません。

当社の取り扱う古紙は、専ら再生利用の目的となる産業廃棄物であるため、産業廃棄物処理業の許可は必要ありません。(いわゆる“もっぱらゴミ”)

[廃棄物の処理及び清掃に関する法律]第14条・第7条

【主要な環境法令】

循環型社会形成推進基本法

騒音・振動規正法・・・プレス機械

大気汚染防止法・・・作業場の粉塵

道路交通法・・・回収車

福井県環境基本・公害防止条例

5. CSR

- ① 工場見学の受入
- ② 従業員待遇の向上(従業員アンケート)
- ③ 安全運転五志の誓い(毎朝唱和)
- ④ 機密文書取り扱い(エコポリス)
- ⑤ 近隣住民への情報公開
(騒音/振動/粉塵の測定)
- ⑥ 北陸において業界初のISO9001取得
(2005年9月)



6. 会社概要

会社名 株式会社 増田喜

本社 〒910-0021 福井県福井市乾徳2丁目6番6号(800坪)

TEL0776-27-2169 Fax0776-27-2168

URL <http://www.masudaki.jp>

営業所 福井営業所(1000坪) 奥越営業所(2000坪)

業種 再生資源回収卸売業(古紙類、古繊維類)

資本金 5000万円 売上 4.5億円

代表取締役 増田喜代治

従業員 27名

車両 20台

【沿革】

昭和21年	創業
昭和24年	(有)増田喜商店設立、再生資源全般を取り扱う
昭和37年	金属原料部門を分離し、北鋼産業(株)を設立
昭和49年	(株)カミ商小松(系列会社)を石川県小松市に設立
昭和50年	勝山市に奥越営業所を開設
平成7年	(株)カミ商武生(系列会社)を越前市(旧 武生市)に設立
平成16年	福田三商(株)(名古屋市)(株)シマダ(富山市)安田紙業(株)(高岡市)と 北陸三商(株)を設立
平成17年8月	機密文書出張細断処理サービス開始
平成17年9月	ISO9001:2000版認証取得
平成18年4月	福井市西開発に福井営業所を開設
平成18年6月	株式会社 増田喜 に社名変更

【主要仕入先】

(株)福井新聞社 福井県民生活協同組合 (株)みつわ等量販店 セーレン(株)
日華化学(株) 広燃産業(株) 福井リコー(株) 官公庁機密文書処理
福井市段ボール・紙製容器回収事業 嶺北一円 集団資源回収

7. 評価・勧告

(株)増田喜の環境活動は、本業の資源回収と密接な関わりを持ち、“環境＝仕事”の関係が成り立っています。このような環境目標の設定は、次のようなメリットがあり高く評価できます。

“環境活動が企業の継続的な発展につながること”

“全社員が積極的に参加でき、長続きすること”

また、地域社会への貢献/従業員教育/積極的な情報公開を通して、業界全体のイメージアップを図ろうとする強い意欲を感じることができました。さらに、静脈産業として50年以上の歴史を持ちながら、新規の事業にチャレンジし続ける姿勢には、感心させられます。

今後、更なる向上を図るために以下の2点を推奨します。

- ① 環境目標を定めたばかりなので、目標に向かってどのような活動を行い、どのように目標をチェックするのか未確定の部分が残ります。よって、PDCAのサイクルを確立して、次の環境プランナー報告書に展開させること
- ② ステークホルダーとしてお客様/従業員/地域住民を強く意識されているので、これらステークホルダーの意見も反映されると、よりバランスの取れた報告書になること

2006年7月7日

環境プランナーER PER(1)0059

大竹 庸人